



勝海舟 (通称: 麟太郎、安房守、安芳 実名: 義邦)
海舟は、幕末から明治にかけて激動の時代を駆け抜けました。咸臨丸で渡米し、海軍の育成に努めるなど革新的な考えを持った幕臣と言われています。
慶応4(1868)年に新政府軍が江戸に進軍した際には、薩摩藩邸における西郷隆盛との会見や、池上本門寺での会談等を経て、「江戸無血開城」を実現させたことでも有名です。

「国登録有形文化財 旧清明文庫」

清明文庫は、海舟没後、海舟の墓所や別荘「洗足軒」の保存、海舟に関する図書の収集・閲覧、講義の開催等を目的として、財団法人清明会が昭和8年に開館しました。平成12年に国登録有形文化財に登録され、平成24年に大田区の所有となりました。外観正面中央部のネオゴシックスタイルの柱型4本が特徴的で、内部にはアールデコ調の造作が施されるなど、西洋の建築技法も取り入れられたモダンな建造物です。



開館当初の清明文庫(洗足風致協会所蔵)



リニューアルした外観

大田区立 勝海舟 記念館

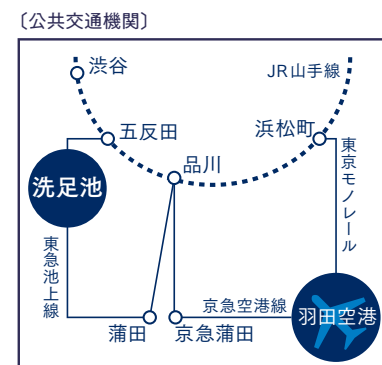
Ota City Katsu Kaishu
Memorial Museum



交通のご案内



- 〔電車の場合〕
● 東急池上線「洗足池」駅下車徒歩6分
〔バスの場合〕
● 東急バス「洗足池」徒歩6分



※ 障がい者用の駐車場はございます。

利用案内

開館時間: 10:00-18:00(入館は17:30まで)
休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日
入館料: 一般300円、小中学生100円、
団体(20名以上) 2割引(240円、80円)
※ 身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその付添の方1名が無料です(入館の際は、上記手帳等の提示をお願いします)。
※ 高齢者(65歳以上) 2割引(240円) 入館の際は年齢の分かるものの提示をお願いします。

お問合せ

〒145-0063 東京都大田区南千束 2-3-1
TEL.03-6425-7608 [勝海舟記念館](#) [検索](#)
開館日 令和元年9月7日(土)
9月7日(土) 一般入場は13:00~



勝海舟が愛した洗足池。

勝海舟の記念館—文化財の保存・活用—

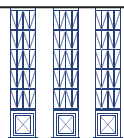
国登録有形文化財である旧清明文庫を保存・活用しながら増築し、全国初の勝海舟記念館を開館しました。海舟の功績や大田区との縁を紹介するとともに、海舟の想いと地域の歴史を伝える記念館を目指します。

「勝海舟とおおた」

明治時代後期、海舟は洗足池の畔に別荘「洗足軒」を構え、自身の埋葬の地に決めました。江戸無血開城直前、海舟は洗足池の畔を經由して池上本門寺の新政府軍との会談に臨んでいます。その時の記憶が、海舟を洗足池に強く惹きつけたのかもしれません。海舟は現在も洗足池の畔に静かに眠っています。



洗足軒



Floor map

至誠の人、勝海舟を深く知ろう。

2nd Floor



海舟ゾーン
海舟に関する資料等の展示や、タッチパネルで海舟ゆかりの人々の検索や海舟クイズなどで楽しみながら学べます。

旧貴賓室

貴賓室として使用されていた当時の造りを復元した部屋です。海舟の胸像を設置しています。



海舟ブレイク
海舟自身の言葉等から、海舟が何を考えてきたかを解き明かし、その想いと人物像に迫ります。

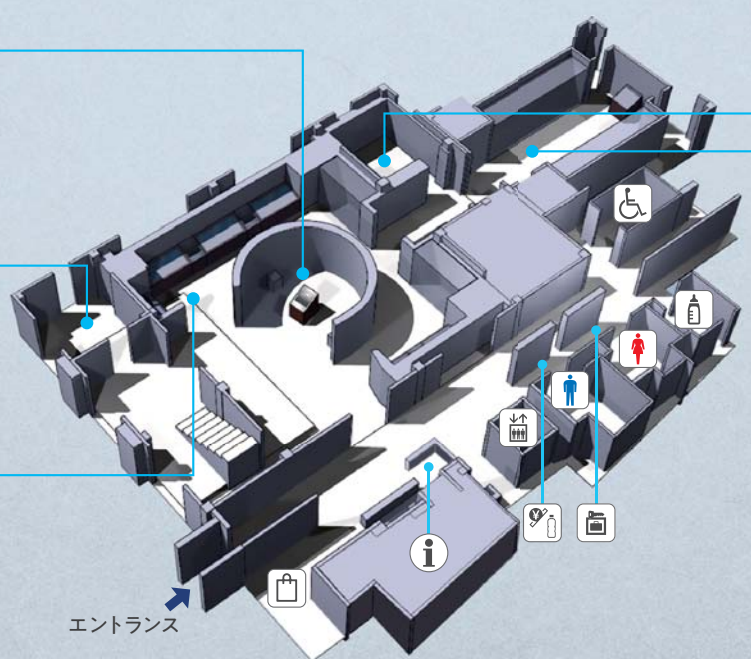
全国行脚

海舟が訪れたゆかりの地をモニターで紹介します。全国各地を駆け巡った海舟の足跡をご覧ください。



海舟クロニクル
実物資料等をもとに、幕末から明治時代を駆け抜けた海舟の一生を辿ります。

1st Floor



エントランス

洗足池ゾーン

海舟が愛した洗足池の紹介や、別荘「洗足軒」のジオラマ等を展示します。その他、タッチパネルで所蔵資料の検索等が可能です。



大型モニター映像展示

3つの作品を放映しています。
「東京はこうして生まれた」12分
「洗足池の四季」6分
「若き日の海舟」6分



清明文庫ゾーン

勝海舟記念館として活用している清明文庫の模型や、当時の講演の様子等を紹介しています。



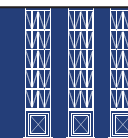
時の部屋

CG映像を中心に、大海原を進む咸臨丸の航海を体験できます。



企画展示室

定期的にテーマを変え、展示を行います。



近隣史跡の紹介



勝海舟夫妻墓所

海舟は明治32年1月19日に死去しました。五輪の形式は海舟が生前に図案化して指示したものといわれ、「海舟」の文字だけを水輪に刻ましています。

南洲留魂詩碑

西郷隆盛（南洲）を悼み、明治12年、南葛飾郡木下川に勝海舟が建立した石碑で表面に西郷の作詩を、裏面には海舟の西郷への述懐が刻まれています。



南洲海舟両雄詠嘆之詩碑

昭和12年に数名の有志が計画し、海舟を師と仰ぐ、徳富蘇峰に詩を書いてもらい設立しました。

